

研究課題	社会的養護下の子どもの社会的認知発達の特徴に関する研究		
氏名	岩崎 美奈子	所属 総合教育科学系 教育心理 学講座	職名 講師
APRIN e-ラーニングプログラムの受講 ☒ - 受講済の場合はチェックをすること			
【研究成果の概要】 （文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）			
【問題と目的】 社会的養護のもとで育つ子どもはアタッチメント対象との分離などから社会的認知に何らかの影響を受けている可能性があり、それが養育者との関係構築を難しくする要因のひとつであると考えられている。本研究は、社会的場面における子どもの視線等を測定することにより、社会的養護のもとで育つ子どもの発達及び行動と社会的認知発達の特徴を調査し、それが他者との相互交流に及ぼす影響について探索的に検討することを目的とした。			
【方法】 乳児院入所児34名（男児18名、女児16名、平均26.18±11.35か月）と保育園児28人（男児21人、女児7人、平均29.36±7.47か月）を対象として、遊び場面や共同注視場面などの画像課題を用いた視線測定及び体表温度、発汗測定をおこなった。また、子どもの発達及び行動評価のために、子どもの担当保育者を対象にVineland-II適応行動尺度（Vineland）と養育問題のある子どものためのチェックリスト（CMYC）を実施した。データは計測解析ソフトウェアを用いて分析した。なお、本研究は東京学芸大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施された（承認番号677）。			
【結果】 1. Vinelandの社会性において、乳児院の子どもは保育園児に比べて有意に高かった（ $U = 217.00$, $p < .001$, $r = .44$ ）。 2. 挨拶場面で「こんにちは」と挨拶していない左側の女性（ $U = 608.00$, $p = .018$, $r = .31$ ）、共同注視場面の顔（ $U = 638.00$, $p = .005$, $r = .36$ ）、マラカス（ $U = 280.50$, $p = .013$, $r = .32$ ）、その他（ $U = 299.50$, $p = .026$, $r = .29$ ）、母子の相互交流場面のその他（ $U = 305.00$, $p = .030$, $r = -.28$ ）、共感場面のぬいぐるみ（ $U = 494.00$, $p = .044$, $r = .27$ ）における注視時間に有意差が認められ、乳児院の子どもに比べて保育園児は人の顔をよく見る傾向にあった。また、挨拶場面では、女性が挨拶するまでの合計注視時間が、乳児院の子どもに比べて保育園児は有意に長く（ $U = 265.50$, $p = .007$, $r = -.35$ ）、保育園児は乳児院の子どもに比べて、「こんにちは」と挨拶をする女性以外の場所も注視していた。 3. 挨拶場面で「こんにちは」と挨拶していない左側の女性（ $U = 664.50$, $p = .001$, $r = .42$ ）、挨拶している右側の女性（ $U = 608.50$, $p = .017$, $r = -.31$ ）、その他（ $U = 640.00$, $p = .004$, $r = .37$ ）、共同注視場面の顔（ $U = 677.00$, $p < .001$, $r = .44$ ）、その他（ $U = 292.00$, $p = .017$, $r = .31$ ）、母子の相互交流場面の子どもの顔（ $U = 723.50$, $p < .001$, $r = .53$ ）、母親の顔（ $U = 612.00$, $p = .014$, $r = .32$ ）、共感場面のぬいぐるみ（ $U = 522.50$, $p = .009$, $r = .35$ ）に対する訪問回数に有意差が認められ、保育園児は乳児院の子どもに比べて、刺激に接近する頻度が高く、特に繰り返し顔を注視していた。 4. 共同注視課題の通過得点では、有意な差は認められなかった（ $U = 395.00$, $p = .674$, $r = .06$ ）。			
【考察および今後の課題】 本研究結果より、乳児院の子どもは、自ら社会的情報を得るために顔を見ることが少ない可能性が示唆された。また、これまでの養育経験による影響が適応行動の獲得に関連していることや、コミュニケーションの中断による脅威に敏感である可能性が示唆された。したがって、社会的養護のもとにいる子どもの養育者や支援者は子どもからの相互作用のサインを受動的に待つのではなく、積極的にポジティブな相互作用を伴うかわりをおこなうことが望まれる。一方で、本研究は対象者数が少ないため一般化には限界がある。また、子どものこれまでの養育環境と施設での養育環境を考慮するためには、入所時期や入所期間を考慮した上での検討や、縦断的な研究も必要であると考えられる。			
【研究成果発表方法】 - 社会的養護下の乳幼児の発達及び行動特徴が社会的認知に及ぼす影響，岩崎美奈子・山崎知克，第33回日本乳幼児・医学心理学会口頭発表 - Exploring Social Cognitive Development in Children: A Pilot Study at a Children's Home., M. Iwasaki., T. Yamazaki, Y. Ishizaki, E. Furukawa, N. Fukuchi, C. Hayashi, S. Mashino, Y. Inoue, and M. Umeda., Child Abuse Review（投稿中）			

発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに 1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。